

山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信！

山/大/医/学/部

Yamaguchi University Faculty of Medicine and Health Sciences / Yamaguchi University Hospital

病/院/だ/よ/り

3

2024

Vol.264



災害派遣医療チーム「DMAT」

令和6年1月1日に発生した能登半島における大規模な地震でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様及び関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様のご安全と、平穏な生活が一日でも早く戻りますことを心よりお祈り申し上げます。



高度な生殖補助医療を包括的に提供する

生殖医療センターを設置



外来受付

外来受付を新設しました！

これまで、カップルのどちらかが不妊症を疑い、どこかに相談したいと思っても「どこに相談すればよいか分からない」という声を多く聞きました。同センターではカップルが同じ病院で共に受診できるのが大きな特徴です。同センターの開設に伴い、外来受付も設置しましたので、ぜひカップルで一緒にご相談ください。

このたび本院に「生殖医療センター」を設置しました。同センターでは、産科婦人科と泌尿器科が診療連携を強化して不妊治療にあたります。これにより、男性、女性それぞれの不妊原因に応じて外来で行える一般不妊治療から、難治性不妊症患者さんに対して行う体外受精、顕微授精、胚凍結保存、融解胚移植、精巣内精子採取、顕微鏡下精巣内精子採取といった高度な生殖補助医療技術などを包括的に実施できるようになりました。

〈受診の流れ〉

カップルで生殖医療センター（婦人科・泌尿器科）を受診

治療方針や検査等について説明

主な検査

【男性】
精液検査
ホルモン採血
など

【女性】
ホルモン検査
排卵確認
子宮卵管造影検査
など

検査結果により
泌尿器科で治療

検査結果により
婦人科で治療

YouTubeで公開中

ラジオ市民公開講座

「カップルで考えよう 不妊治療」

令和5年12月11日（月）18時より、FMきららで同センター主催のラジオ市民公開講座「カップルで考えよう 不妊治療」を実施しました。同講座は泌尿器科学講座の白石晃司教授と産科婦人科学講座の田村功講師による対談形式で、本院での最新の不妊治療についてわかりやすく話しました。YouTube山口大学病院チャンネルで公開しています。





より円滑な心理支援を目指して 臨床心理センターを設置



本院に「臨床心理センター」を設置しました。本院の心理職（臨床心理士、公認心理師）は精神科神経科をはじめ、緩和ケアセンターや小児科などで日々の業務に対応していますが、同センターの設置により、院

内の心理職を組織化し、より円滑な心理支援の実現を目指してまいります。また、院内スタッフの相談にも対応することで、スタッフのスムーズな患者さん支援をサポートしてまいります。

Topics トピックス

令和5年

12月2日(土) 低侵襲手術センターが市民公開講座を開催

本院A棟1階オーデトリウムで、低侵襲手術センター主催の市民公開講座「からだに優しいロボット手術とがんのお話～診療科の枠を越えたチーム医療による最先端の医療～」を開催しました。同講座は低侵襲手術センター長の白石晃司教授と、総合周産期母子医療センターの竹谷俊明准教授のトーク形式で、手術支援ロボットを使用した本院の低侵襲手術の現状をはじめ、最新のがん治療について紹介しました。

講座の内容については、YouTube山口大学病院チャンネルでも公開しています。



令和6年

1月7日(日) 小学生向け職業体験イベント『知る職』に参加



KDDI維新ホール(山口市)で開催された小学生向け職業体験『知る職』は、本学経済学部1年生の古野翔音(ふるのしょうおん)さんが主催するイベントです。「職を知ったら世界が広がる」をテーマに、小学生がさまざまな企業の仕事を体験できます。第3回目となる今回はカメラマンや大工、化粧品メーカー、英語教師など26種の職業体験ブースがあり、本院も「医師」、「看護師」、「医療従事者」の3ブースで参加しました。

約900名の来場者があり、子どもたちは小児用の白衣や看護師のユニフォームを着用してヤマミィと一緒に記念撮影をし、診療体験や採血体験、食育体験を楽しんでいました。参加したある親子からは「普段体験することのない貴重な体験ができてよかった」「将来は医者になりたい」などの声が聞かれました。

今回の体験を通して、子どもたちの中から本院の仕事に興味を持ち、未来の医療人が育ってくれることを願います。

令和6年

1月12日(金)～17日(水) 能登半島地震の被災地へDMATを派遣



山口県の要請を受け、本院のDMATチームより医師2名、看護師2名、業務調整員(診療放射線技師)1名の計5名が、1月12日(金)～17日(水)の6日間、石川県七尾市にある公立能登総合病院を拠点に医療活動を支援しました。加えて、災害派遣ナース5名、災害派遣登録薬剤師1名も活動に参加しました。

現地では福祉施設情報班を担当し、福祉施設の被害状況調査をはじめ、入所者や職員の状況確認、医療・物資のニーズ調

査などを行いました。また、看護師の派遣要請があった施設には看護師の派遣を調整しました。

支援活動を終え、1月18日に帰院したDMAT隊員を、職員一同拍手で迎えました。後日行われた報告会では、活動内容の報告とともに災害拠点病院として県内で発災した場合の対策を検討しておく必要性について話しました。

令和5年

12月26日(火)

筋強直性ジストロフィー治療に関するII相治験で世界初の有効性を確認



大学院医学系研究科臨床神経学講座の中森雅之教授、大阪大学医学部附属病院未来医療開発部の中谷大作准教授らの研究グループは、他の疾患の治療薬に使われるエリスロマイシンが、厚生労働省の指定難病である筋強直性ジストロフィーの治療に対して安全性があることを確認し、病態に直結するスプライシング異常を改善する有効性を世界で初めて示しました。

これは、他施設共同医師主導治験（プラセボ対照無作為化二重盲検比較試験）の結果によるもので、中森教授は治験調整医師として検証にあたりました。

12月26日、本学医学部で記者説明会を開き、中森教授が

治験の詳細や結果等について説明しました。

筋強直性ジストロフィーは約2100人に一人と有病率が高い遺伝性疾患で、全身の筋力低下や不整脈、認知機能障害、嚥下・呼吸障害など全身に多様な症状が現れます。症状は徐々に進行し、現在に至るまで有効な根本的治療薬はない難病です。

この治験の結果により、今後世界初の筋強直性ジストロフィーの治療として、エリスロマイシンによる治療薬の開発が進むことが期待されます。

本研究成果は英国の国際学術誌「eClinicalMedicine」に公開されました。

令和6年

2月15日(木)

小学生を対象としたキャリア教育に参加

上宇部小学校の4年生から6年生までを対象とした総合的な学習の時間（キャリア教育）に、本院の佐藤春介看護師が講師として招かれました。講演のテーマは「夢に向かって～ゲストティーチャーに学ぶ会～」で、看護師の仕事内容をはじめ、目指したきっかけやそのために努力したこと、看護師をやってよかったと思うことや大変なこと、今後の夢などについて分かりやすく話しました。また、佐藤看護師は脳卒中看護分野の認定看護師でもあり、家庭でもチェックできる検脈やACT-FASTといった脳卒中が疑われる症状についても説明しました。講演は2回に分けて行われ、各回30人前後の児童が時折メモを取りながら熱心に話を聞いていました。



定年退職者

退任のごあいさつ

長年にわたりお世話になりました



山口大学大学院 医学系研究科長
山口大学医学部長
山口大学大学院 医学系研究科
医学専攻 神経解剖学講座 教授

篠田 晃

このたび、医学系研究科長・医学部長と27年にわたる教授職を終えることになりました。皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

振り返ると色々なことがございました。2001年に起きたホルマリンと化学物質過敏症問題には、当時の学部長らと共に長期にわたり対応しました。この間、独自に局所吸排型解剖実習台を開発してホルマリン濃度の劇的低減に成功しました。文部科学省から評価され全国標準仕様となり、現在開発中の病床での新しい換気システムに繋がりました。

臨床教育では早期外科学実習、卒業医師のリカレント外科教育(CCS)を開設しました。新型コロナウイルス感染症対策ではチームCovidComを編成し、YUMECOと協力して学生や授業の対応を行いました。直近では、山口東京理科大学と連携協定を締結し、医療系多職種

連携教育を共同実施することとなりました。そして人生の中間で思い悩む卒業生や医師、医学者に寄り添い、山口県医療アカデミアへの帰帰を促すM-MARC (Midlife Medical Academia Recurrence Center)を新たに設置しました。

最後に、病院・医学部の皆様が働き甲斐や学び甲斐を感じられ、益々自己実現と社会貢献の喜びを実感できる空間になっていくことを祈念いたします。



2月19日(月) 最終講義を行いました



山口大学大学院 医学系研究科
医学専攻 耳鼻咽喉科学講座 教授

山下 裕司

このたび、令和6年3月末日に定年退職いたします。振り返りますと、昭和53年4月に本学医学部に入学以来、学生・大学院生・教官を通じて、46年間の長きにわたりお世話になりました。前任の高橋正紘教授の転任に伴い、平成11年8月に40歳という若輩の私を教授に指名していただき、このたび退官の日を迎えられることに心から感謝申し上げます。

教授就任後は、「研究マインドを持つ専門医の育成」と「独創性のある内耳基礎研究の継続」を医局の目標として、運営してまいりました。附属病院ではME機器管理センター長を長年務め、耳鼻咽喉科長として、多くの専門医や指導医を育成してまいりました。大学病院に相応しい先進的な医療体制と専攻医の教育体制を構築し、本年度中に診療科名を耳鼻咽喉科・頭頸部外科に変更できたことに感謝いたします。

最後に、山口大学医学部附属病院の益々のご発展とご健勝を心から祈念しております。



山口大学大学院 医学系研究科
医学専攻 医療情報判断学講座 教授
山口大学医学部附属病院 医療情報部長

石田 博

このたび、定年を迎え退職することとなりました。皆様には長きに渡りお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

私どもの医療情報部は馴染みのない方も多いと思いますが、本院が提供する安心、安全な医療を情報面から支える電子カルテや関連システムなどの病院機能のインフラを管理している部門です。システムの24時間365日の安定稼働とともに、新たな情報技術も積極的に取り入れて診療における効率的な情報利用と効果的な診療支援を可能とする機能の充実を図るべく取り組んで参りました。国の施策により電子カルテに蓄積された主要な診療情報は、全国どここの医療機関でも、また、患者さん自身もマイナンバーカードを用いてスマホなどで参照できる時代になって参りました。その情報源となる電子カルテと診療情報の正確で安全管理を守る医療情報部への変わらぬご支援をよろしくお願い致します。



山口大学医学部 副学部長・保健学科長
山口大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 地域・老年看護学講座 教授

野垣 宏

このたび、令和6年3月末日に定年退職いたします。あらためて山口大学医学部及び附属病院の皆様へ感謝申し上げます。

私は昭和58年神戸大学医学部の卒業ですが、下関市出身ということもあり、山口大学で医師としての研修を開始しました。平成元年に本院の神経内科（現脳神経内科）に助手として採用となり、診療や研究に励みました。新設ゆえ苦労も多々ありましたが、今となっては懐かしい思い出です。平成16年に保健学科の教授となつてからは、業務の主体が教育や組織運営にシフトしました。特に直近の6年間は保健学科長、副医学部長として様々な仕事に携わりました。この得難い経験を今後の人生に活かしていきたいと思えます。退職後はこれまで培ってきた脳神経内科学、老年病学、リハビリテーション学、内科一般の知識や経験をもとに、山口県の地域医療に少しでも貢献できればと考えております。医学部及び附属病院の皆様への益々のご発展を祈念いたします。



山口大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 病態検査学講座 教授

田中 伸明

このたび、令和6年3月で山口大学を定年退職することとなりました。昭和58年に医師となつて以来、心エコー図検査に軸足をおいて、附属病院の検査室や病棟が私の主な居場所でした。平成18年に山口県立総合医療センターに異動しましたが、平成25年に保健学科に採用され、山口大学に戻ってまいりました。

病院では循環器内科外来で1/2日診察を行い、心エコー図検査室で1/2日勤務するという限られた時間でしたが、大変充実しておりました。

在職中にお世話になりました山口大学医学部、附属病院、双樹会、霜仁会、第二内科同門会をはじめ多くの諸先輩方、同輩、後輩の皆様には厚く御礼申し上げます。皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を祈念しております。

定年退職者

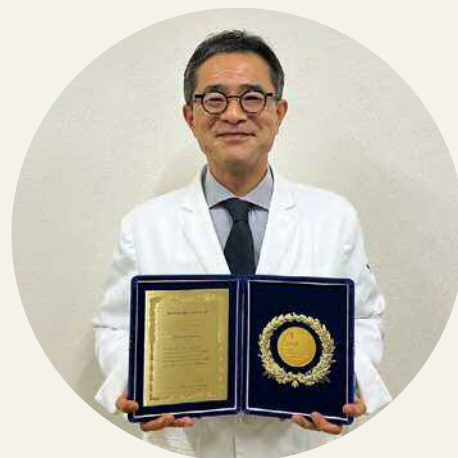
山口大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 基礎検査学講座 教授

河野 裕夫

松永教授がAPSR2023の Harasawa Research Awardを受賞

大学院医学系研究科呼吸器・感染症内科学講座の松永和人教授が、2023年11月にアジア太平洋地域の呼吸器学会（APSR）において「Harasawa Research Award」を受賞しました。この賞はAPSRの開設に尽力された元東京大学の原澤道美教授が他界された翌年の2003年に創設された賞で、アジア太平洋地域の人々の肺の健康を守るために貢献した研究者に贈られるものです。

松永教授は長年、重症喘息の臨床的寛解を目標とした研究を続け、本学会でこれを実現するための新たな治療的戦略について発表しました。その3つのポイントとして、①喘息が重症化するメカニズムの解明 ②重症化を判断する新しい検査方法として、呼気一酸化窒素濃度測定検査（呼気NO検査）を開発・保険診療化 ③重症喘息に関与する分子を標的とするバイオ製剤（分子標的治療薬）の臨床応用開発



を挙げています。このうちの②呼気一酸化窒素濃度測定検査（呼気NO検査）における炎症バイオマーカーの開発および保険診療化に向けた取り組みに関して、松永教授らの研究グループは長年尽力しました。

また、松永教授らが作成した気道炎症バイオマーカーに関する英文ガイドラインは、アジア太平洋地域初の学会ガイドラインとして広く活用されています。

松永教授は「これまで重症喘息は副作用がある全身性ステロイド薬を使った治療を回避出来ませんでした。今回発表した新たな治療戦略の普及がさらに進めば、ステロイド薬に依存しない重症喘息の治療が可能になります」と話しました。



お知らせ Information

脳卒中に関する相談を受け付けます

令和5年10月より、患者支援センター内に脳卒中相談窓口を設置しています。脳卒中の患者さんやご家族からの相談に応じて、脳卒中の予防や治療、リハビリテーション、介護、就学や就労などに関する情報を提供いたします。相談内容により相談員が異なりますので、事前のご予約をお願いいたします。

- 相談受付：9時～15時（予約制）
- 相談方法：面談、電話
- お問合せ：患者支援センター TEL 0836-22-2580

CT・MRI（単純検査）の紹介検査を受け付けます

かかりつけ医の紹介による、CT・MRIの紹介検査を受け付けています。最新機器での撮影や検査が可能ですので、ご希望の場合は、あらかじめかかりつけ医にご相談いただき、かかりつけ医による予約取得の上、ご来院ください。



公式FacebookとInstagramで
山大医学部・病院の情報を発信中



Facebook



Instagram

企画発行 山口大学医学部広報委員会 / 山口大学医学部総務課広報・国際係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2111
医学部 <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/med/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>